

業務部速報

No. 31

発行 14. 11. 7

JR東労組 業務部

申12号

「京浜東北・根岸線および横浜線の乗務員基地再編成」の 中止・見直しを求める緊急申し入れ!! 提出!!

■施策の矛盾点

1. 京浜東北・根岸線で、最も輸送量が多い赤羽～蒲田間には、約470名の乗務員が配置されています。しかし、大田運輸区（仮称）発足後は195名となり大幅に減少することになり、会社が主張する輸送段差や車両留置数、異常時に必要な体制とは相反する。
2. 下十条運転区廃止に伴い車両留置箇所が変更されることで、夕方ラッシュ帯の車両運用が3編成削減され、混雑率が上昇する事も明確で、乗客に多大な迷惑をかけるだけでなく、指令、駅、乗務員など輸送に携わる全ての関係者の負担が増大することになる。
3. 横浜運輸区（仮称）建設予定の磯子駅周辺の地盤は、水分を多く含み非常に軟弱であり、液状化現象も指摘されるなど建築地盤としては全く適していません。災害時には、津波やコンビナート火災が発生し「立ち入り禁止区域」となるばかりか人命をも脅かすことになる。

■本部は、第6回中央執行委員会において、安全はもとより、輸送品質は間違いなく低下すると判断し、「京浜東北・根岸線および横浜線の乗務員基地再編成」施策の中止・見直しを求めることを決定しました。

1. 2015年3月ダイヤ改正での下十条運転区の廃止を見直し、2015年3月14日に開業する「上野東京ライン」を検証し、旅客流動の変化を見極めた上で、異常時体制を考慮した乗務員基地再編成をおこなうこと。
2. 京浜東北・根岸線の輸送品質・サービス品質を向上させるため、輸送量が最も多い赤羽～蒲田間の乗務員を確保し、線区全体の輸送段差と異常時を考慮した乗務員配置とすること。
3. 防災や減災の視点から、磯子駅周辺への乗務員基地建設を見直すこと。

輸送品質が向上する施策を実現させよう!